

プレスリリース

2015年2月16日

EL15-10

報道関係各位

公益財団法人 日本糖尿病財団

日本イーライリリー株式会社

第4回 リリー・インクレチン基礎研究助成プログラム 選考結果のお知らせ

公益財団法人 日本糖尿病財団(東京都文京区、理事長:岩本安彦 以下、日本糖尿病財団)と日本イーライリリー株式会社(兵庫県神戸市、代表執行役社長:パトリック・ジョンソン 以下、日本イーライリリー)が設立した、インクレチンの基礎研究を助成する「第4回 リリー・インクレチン基礎研究助成プログラム」の選考が日本糖尿病財団によって行なわれ、以下の基礎研究への助成が決定されました。

(順不同・敬称略)

氏名	所属	研究課題
原田 範雄	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 助教	腸管内分泌 K 細胞における脂質摂取時の GIP 過分泌の機序解明
横井 泊英	神戸大学大学院医学研究科 分子代謝医学 特命准教授	インクレチンによるインスリン分泌増強における膵β細胞グルタミン酸トランスポーターの役割の解明
中司 敦子	岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科 助教	Vaspin の GLP-1 を介した血糖調節機構の解明
中田 正範	自治医科大学医学部 生理学講座 統合生理学部門 准教授	膵ラ氏島産生インクレチンによる膵β細胞保護・インスリン分泌促進作用と糖尿病治療応用
西村 渉	自治医科大学医学部 解剖学講座 解剖学部門 准教授	膵β細胞の脱分化に対するインクレチン作用の研究
宮塚 健	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科 准教授	膵α細胞特異的 GLP-1 受容体過剰発現マウスの作製とその表現型解析

松岡 孝昭	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 講師	GLP-1 シグナル活性化による膵外分泌細胞から膵β細胞への分化誘導の試み
中村 昭伸	北海道大学大学院医学研究科 免疫・代謝内科学分野 助教	膵β細胞量調節機構におけるグルコースシグナルとインクレチンシグナルのクロストークメカニズムの解明

リリー・インクレチン基礎研究助成プログラムは、糖尿病治療薬として近年期待が高まっているインクレチンの機序や病態解明に関わる革新的な基礎研究を推進することを目的に、日本糖尿病財団と日本イーライリリーにより 2011 年に設立されました。

本プログラムへの応募資格者は、日本人研究者であり、かつ日本国内で基礎的研究を行う者とし、ヒトでの研究は対象外となります。第4回の応募期間は、2014年11月19日から2015年1月9日までで、選考は日本糖尿病財団選考委員会により実施され、理事会によって最終決定されました(なお、日本イーライリリーは、選考について一切関与しておりません)。助成期間は2015年4月より1年間で、研究課題1件につき100万円以内を助成します。

日本糖尿病財団と日本イーライリリーは、本プログラムを通じて、インクレチンの基礎研究を支援し、糖尿病領域の病態解明、治療環境の向上に貢献していきたいと考えております。

この結果は、日本糖尿病財団のホームページでも発表されています。

<http://www.j-df.or.jp/grant.html>

以上

公益財団法人 日本糖尿病財団について

日本糖尿病財団は、平成3年9月に設立された厚生労働省認可の財団法人です。その後、公益法人改革に伴い、行政庁(内閣府)より公益財団法人の認可を得、平成25年4月1日に公益財団法人に移行しました。糖尿病に関する調査研究の実施及び助成、並びに糖尿病に関する正しい知識の普及・啓発活動の実施及び助成、糖尿病に関する国際交流活動の実施及び助成、糖尿病に関する印刷物の刊行など、さまざまな事業を行い、もって国民の健康の増進に寄与することを目的としています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.j-df.or.jp/>

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立40周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬、高コレステロール血症などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>